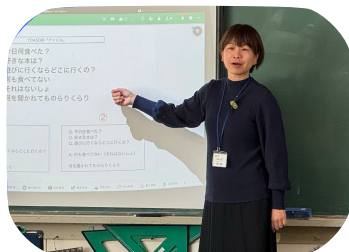
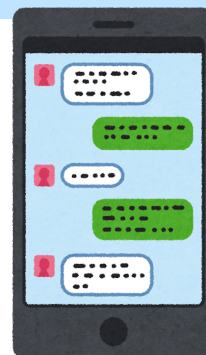


チャットにチャレンジ

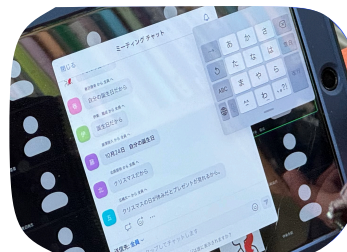
美篤小学校6年生はデジタル・シティズンシップの授業を継続的に受講しています。個人情報や肖像権、セキュリティ、長時間利用やフェイクニュースなどの具体的な事案に触れながら、「立ち止まって考える」「先生や大人に相談する」が大切だと学ぶシリーズ授業です。5回目の今回はチャットの楽しさと難しさを体験しました。「匿名」のチャットではどのようなことが起きていくのかを実体験し、デジタル・シティズンとしてどのように対応すべきかを考え合いました。



①人気曲の歌詞を題材に「どっちの意味だと思う？」とアンケート。クラスでも半々に分かれ、文字だけだと2通りの解釈ができることを理解しました。



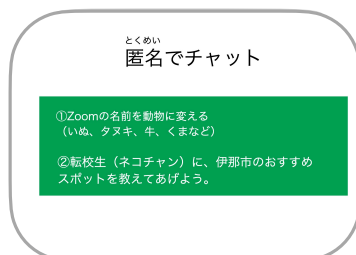
②「私の特技は？」の問いにチャットで質問をして、みんなで答えを特定していきます。どのように問い掛ければヒントを引き出せるでしょうか。



③「学校が休みの日を新たに作ろう。」「何月何日？」「どうしてその日？」チャットで大喜利、楽しくなるとテンポが上がり、言葉遣いが乱れることも。



④子どもたちは全員自分の部屋でチャットをやっている設定です。講師の浅利先生は子どもたちの書き込みに対して適宜、チャットで返信をしています。

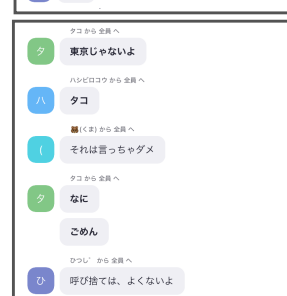
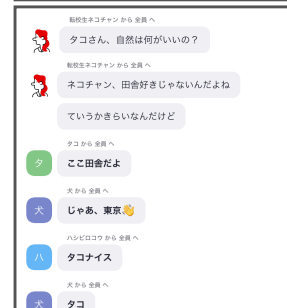
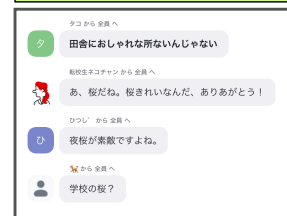


⑤Zoomの名前を一時的に動物の名前に変えて「匿名」でチャットをします。「転校生（ネコちゃん）に、伊那市のおすすめスポットを教えてください。」という課題に取り組みます。



⑥変更した名前を自分の名前に戻してZoomを退出しました。「チャットをやってみて感じたこと」や「チャットするとき要注意したいこと」などを書いて振り返りをしました。

「匿名」でチャットを行なっていくうちに



転校生のネコちゃんが「伊那市のいいところを教えてください」と問いかけました。みんなが親切に紹介していくと、ネコちゃんが「田舎は好きじゃないんだよね」と思いやりのないメッセージを書き込みます。子どもたちは戸惑いながらも書き込みを続けました。「どうしてそう思うの？」と共感しながら気持ちを探ろうとする子や、場を和ませようとする子、言葉遣いに気をつけた方がいいと言う子、ネコちゃんの態度に「それは言っちゃダメ」と指摘する子も出てきました。

授業後の子どもたちの感想から

- ・ 相手が誰かわからなくてもちゃんと気持ちを届けていたのでその人を見習いたい。
- ・ 誰が書いてるのか、誰に書いてるのがか名前を動物に変えるとわからなくなりました。しっかりとわかりやすくチャットをしたいと思いました。
- ・ 言葉より感情がわかりづらいので、考えてることをしっかり考えた上でチャットしようと思った。
- ・ 少し場を和ませてくれる人がいたり注意してくれたりしてくれる人もいてとてもいいと思いました。
- ・ 相手を傷つけないように相手のことを思って答えたり、質問したりしたい。
- ・ 匿名でやった時に、YouTubeとかのコメント欄は匿名で誰が言ってるかわからないから、自分のことを特定されないから誹謗中傷とか起こるんだと思った。だから匿名だからこそ気をつけたいと思ったし大人になった時に気をつけたい。

授業を終えて浅利さんからのアドバイス

小学校の授業でチャットを活用する機会はあまりありませんが、高学年になるとプライベートでLINEなどを使う子も出てきます。「危険」と避けるのではなく、早い段階でチャットする練習をしておくことが大切です。チャットは楽しくなると悪ふざけや言葉使いが荒くなり、言葉足らずで誤解を生むこともあります。子どもたち自身が理解した上で活用できるように支援するのが、デジタル・シティズンシップ教育の考え方です。

地域おこし協力隊の浅利美美さんが、美篤小学校の6年生に行った出前授業の様子をもとに推進センターで編集させていただきました。

伊那市では、「学校教育情報化ビジョン2021」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。

伝統的
学びを深めるICT活用

先進的
学びに導くICT活用

「Society5.0」時代の
学びを支える教員

個別最適な学び・対話的学び
創造性を育む学びの実現